

# 目次

## 読解編 第1部

1 説明的文章の読解

2 説明的文章(1)

3 説明的文章(2)

4 説明的文章(3)

5 説明的文章(4)

6 説明的文章(5)

7 説明的文章(6)

8 説明的文章(7)

9 説明的文章(8)

## 読解編 第2部

10 文学的文章の読解

11 文学的文章(1)

12 文学的文章(2)

13 文学的文章(3)

14 文学的文章(4)

15 文学的文章(5)

16 文学的文章(6)

17 文学的文章(7)

18 文学的文章(8)

## 読解編 第3部

19 韻文の読解

20 韻文(1)

21 韻文(2)

22 韻文(3)

120 114 110 104

98 92 86 80 74 68 62 56 52

46 40 34 28 23 18 13 8 4

読解編 第4部

23 古典の読解

24 古典(1)

25 古典(2)

26 古典(3)

27 古典(4)

言語・知識事項編 第1部

28 文法(1)

29 文法(2)

30 文法(3)

31 文法(4)

言語・知識事項編 第2部

32 語句の整理

33 語句(1)

34 語句(2)

言語・知識事項編 第3部

35 文学史の整理

36 文学史(1)

37 文学史(2)

言語・知識事項編 第4部

38 漢字の整理

39 漢字(1)

40 漢字(2)

付録

① 用言活用表

② 助動詞活用表

192 191

189 187 185

183 181 179

175 172 168

162 156 152 148

142 138 134 128 124

1

説明的文章の読解

学習日

月

日

ポイントチェック

- 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(大阪教育大附属平野・改)

〈鈴木孝夫「日本語と外国語」より〉

□(1) 漢字の書き取り — 線(a)〜(c)のカタカナを、それぞれ漢字に直しなさい。

d	a
e	b
	c

□(2) 接続語 ① ② ③ に入る接続語として適切なものを次から一つずつ選び、記号で答えなさい。(同じものは二度選べません)

- ア 従って      イ しかし      ウ ところで      エ 例えば  
オ つまり      カ しかも

①
②
③

□(3) 脱文挿入 右の文章には、次の一文が抜けています。文章中に入れるとすればどこが最も適切ですか。この一文が入る部分の直前の文の、終わりの二文節(句読点は記さなくてよい)を書き抜いて答えなさい。  
(このしくみが理解できれば、カタカナ外国語の意味の日本化はむしろ当然なのだ。)

□(4) 主語をつかむ — 線①「理解できる」の主語を答えなさい。

線①

□(5) 細部をつかむ — 線②「漢字を減らしさえすれば、一切の問題がなくな

る」というのは、どのような考えに基づいていることですか。その考えの内容を表している部分を本文中から探し、その初めと終わりの一文節を書き抜いて答えなさい。

□(6) 適語補充 ※ に入る最も適切なことばを漢字二字で答えなさい。

※

□(7) 細部をつかむ — 線③「仮名(アルファベット)のもつ日本語にとつての恐ろしさ」が具体的に書かれている部分はどこですか。本文中から六十六字(読点や符号も字数に数えます)でその部分を探し、その初めと終わりの五字を書き抜いて答えなさい。

}

□(8) 比喩をつかむ — 線④「泥棒は表玄関からだけ入るものと勝手に考えて」について、次のそれぞれの問いに答えなさい。

□①「泥棒」による被害とは日本語の場合どういふことですか。本文中から過不足なく書き抜いて答えなさい。

}

□②「表玄関」とは何を比喩したものですか。本文中から書き抜いて答えなさい。

## 要 点 の 整 理

- (1) **漢字の書き取り** 漢字の書き取りでは、文脈に注意することが必要です。特に①「ゲンゴ」、②「ケントウ」、③「ジユヨウ」などのように、同音異義語や同訓異義語が存在するもの場合は、文脈からしか漢字を決定できないので、文脈をとるためには読解同様に慎重でなければいけません。ちなみに、④「ゲンゴ」は、ここでは「訳した語」に対する、もとの語の意味になりますから、「言語」ではありません。

(2) **接続語** 接続語の種類と働きをまとめておきましょう。

- I **順接** 前に述べた事柄が原因・理由になって、あとにその順当な結果・結論が述べられる。  
「したがって・すると・それで・だから・そこで」など。
- II **逆接** 前に述べた事柄と順当でないことをあとに述べる。  
「しかし・ところが・けれども・が・だが」など。
- III **並列** 前に述べた事柄と同等のものをあとに述べる。  
(並立) 「また・そして・ならびに・および」など。
- IV **添加** 前に述べた事柄に後に述べる事柄を付け加える。  
(累加) 「しかも・さらに・そのうえ・それから」など。
- V **選択・対比** 前の事柄と後の事柄を対立させ、比較したり、どちらか選択したりする。  
「あるいは・または・もしくは・それとも」など。
- VI **転換** 前に述べた事柄とは直接には関係ない事柄をあとに述べて話題を転換する。  
「さて・では・それでは・ところで」など。

VII **説明・補足** 前の事柄についての理由や補足を述べる。

- (i) **理由説明** 「なぜなら」など。  
(ii) **例示** 「たとえば」など。  
(iii) **補足** 「ただし・もともと」など。  
(iv) **要約・説明** 「つまり・すなわち」など。

接続語は前後関係を示すことばですから、それが空所になっている場合には、逆に前後の内容を要約して関係を把握することが大切です。

例えば、①の前後では、「手っ取り早い」のあとに「他人に知られずに済む」という異なった事柄が付け加えられている点に着目します。②の場合は、いろいろあるカタカナ英語の中から「ニーズ」ということばを例として取り上げている点から考えます。③では前後の関係は「目的は達したかに見える」と「(目的は)達成されたとは言い難い」という部分が相反している点を押さえます。

(3) **脱文挿入** 脱文を本文に戻す問題では、必ず脱文自体の中にヒントとなることば(文自体がヒントの場合もある)がありますから、それがどれかを見つけて最初の作業になります。次に、見つけたことばと照応する内容やことばを本文の中に探すというのが、解法の手順です。

「このしくみが理解できれば、カタカナ外国語の意味の日本化はむしろ当然なのだ。」では、まず「カタカナ外国語の意味の日本化は当然」に着目して、この内容に結びつく場所を段落で大雑把に押さえます。次に、「このしくみ」が何を指しているか(「ニーズ」は必要、要求、希望といった漢字語の総括的代用品として使われている)というしくみを考えれば、挿入可能な場所は限定されてきます。

(4) **主語をつかむ** 主語のつかまえ方は、どの学年でも変わりません。ここでは、「理解できる」のは「だれ(何)が」と問うことです。

(5) **【細部をつかむ】** 正確に文章を読解するためには、文章を文法的に追うことと、内容をじっくり追うことの両面から考えていくことが必要です。

ここでは、まず文法的に「漢字を減らしさえすれば、一切の問題が無くなる」と考えたのはだれだったかを考えます。主部でとらえれば、「このように単純に考えた人の多かった初期の国語審議会が」となるでしょう。さらに「このように単純に考えた」の部分がどこを指しているかを探します。「このように」が考えた内容を指していることは明らかです。そこで、直前の段落にさかのぼり内容を確認します。「しかし」という逆接の接続語に着目して直前の段落を読んでもみると、「このように単純に考えた」「戦後の漢字廃止論者」の安易な考え方への筆者の批判が述べられているのが読み取れます。そうなると、求める考えの内容は最初の段落に書かれていることがわかってきます。こうして、主語を探し、指示内容を探すとこの作業を経て、「このように単純」な考え方の内容へたどり着くことができます。あとは、三行目の「〜と安易に考えた」という表現が、三段落目の一行目「このように単純に考えた」と類似の表現であることも気づければ、おのずと考えの内容が書かれている場所は限定されてきます。

(6) **【適語補充】** 適語補充の問題では、考えるヒントが必ず近くにあります。筆者は、漢字とカタカナ英語を対にして考えています。そこから、「毒薬」と対になるのは何かと考えを進めます。さらに、よく見ると、直前には「口に苦い」という表現が見当たります。ここまですれば、例の「良薬口に苦し」が思いつけるでしょう。ここまですれば、適語は確定することができます。

(7) **【細部をつかむ】** 「仮名（アルファベット）のもつ日本語にとつての恐ろしさ」について考えるためには、筆者の漢字と仮名についての比喩に着目する必要があります。筆者は「カタカナ外来語は甘い口当たりの良い糖衣に包まれた毒薬」と本文で述べています。設問は、比喩ではなく、「具体的に」とあり

ますから、「毒薬」というのがどのようなことを指しているのかを本文中から探せばよいわけです。本文中には「カタカナ外来語は甘い口当たりの良い糖衣に包まれた毒薬と言うが、それは〜をたとえたものである」とあるので、「〜」の部分が比喩ではない「具体的」な内容ということになります。

(8) **【比喩をつかむ】** 比喩についての詳しい説明はここではしませんが、説明文においても、もちろん比喩は多用されるので、つねにその比喩が何の比喩であるかを見失わないようにすることが肝心です。

最終段落では、筆者は国語国字改革の結果について皮肉っぽく評価していますが、その評価の一端として「日本語の難解さの張本人は漢字なりと頭から思い込み、表音文字である仮名（アルファベット）のもつ恐ろしさを知らなかったのだ。」と比喩的に批判しています。結局のところ、漢字さえ制限して減らせば、ことばの理解は進むという単純な考え方で行われた改革の行き着いたところは、カタカナ外国語の氾濫だったのであり、しかも、このカタカナ外国語は多くの人が理解できないまま、というのが筆者の現状把握ということになります。

ここまで内容をつかめれば、「泥棒は表玄関からだけ入るものと勝手に考えて、その戸締めのみ嚴重にして、裏口を締め忘れたようなものである」という比喩は、それほど難しくはないでしょう。「泥棒」は、いわば「日本語の難解さ」、「表玄関」は「漢字」、「裏口」は「カタカナ外国語」となります。

注意しておきたいのは、①の答えは「泥棒」による被害の言い換え表現なので、名詞句ないし名詞節で書き抜くのが基本だということです。

# 11

## 文学的文章(1)

学習日

月

日

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(筑波大附属駒場)

(注) 闊達＝物事にこだわらずに余裕があること。

女給仕＝ウエイトレスのこと。

- (1) — 線ア～オの漢字は読み方をひらがなで、カタカナは漢字に直して答えなさい。

エ	ア		
		オ	イ
			ウ

- (2) — 線①「『困ったことになったぞ』とありますが、ここでの「私」の「困ったことになった」という気持ちを具体的に述べたものとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。
- ア ただ見ているだけではなく、助けてやりたいと思うがめんどくさい。
- イ 自分の経験を思うと学生が気になって、無関心ではいられなくなりそう。
- ウ 自分のところへ金を借りに来られたりして、かかわり合いになるといやだ。

エ 場違いな学生のためにせっかくの食事や会話をじゃまされてしまいそう。

オ 学生の醜態を想像すると、どうしても刺激的な気分になってしまいそう。

- (3) — 線②「自分の置かれた事態」とはどのようなことを、わかりやすく説明しなさい。

- (4) — 線③「『馬鹿』と、私は思った」とありますが、その理由を書いて答えなさい。

--

--

- (5) — 線④「よろしい、その調子で頑張りましたまえ」とありますが、この時の「私」の気持ちとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。
- ア 同情      イ 失望      ウ 安堵
- エ 激励      オ 軽蔑      カ 賞賛

- (6) 学生が困惑し、考え込んでいることがわかる表現を含んでいる一文を本文中から探し、その最初の五字を書き抜いて答えなさい。

--



2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(洛南・改)

SAMPLE

〔井上靖「晩夏」より〕

(注) 不倶戴天Ⅱ共に生きてはいないと思うほど恨むこと。

□(1) — 線ア～ウのカタカナを漢字で書いて答えなさい。

ア		イ		ウ	
---	--	---	--	---	--

□(2) □ア～□ウには共通した一つの接続詞が入ります。それを本文中から書き抜いて答えなさい。

□(3) — 線①「私たちは一人前の子供としての資格を取り戻した」とありますが、これはどういうことを表していますか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 今まで都会の避暑客のために、家の仕事をあれこれ手伝わされてきたが、彼らがいなくなったので解放されたということ。

イ 夏の間、大人の避暑客たちに占領されていた村の海浜を取り戻し、子供らしい振る舞いをするようになったということ。

ウ 都会の避暑客に運ばれてきたきらびやかさで影が薄くなっていったが、それがなくなり普段の活発さを持つようになったということ。

エ 八月も終わりに近づき、遊んでばかりいた村の子供たちも本来の生活に戻り、一人前の責任を負うようになったということ。

オ 村の子供たちを、薄汚い存在として敬遠してきた都会の避暑客がいなくなり、今まで通りの役割を持つようになったということ。

□(4) — 線②「不思議な力」とは何ですか。本文中から二十字で書き抜いて答えなさい。


□(5) — 線③「貫祿」、⑥「華奢」の意味として最も適切なものを、次のそれぞれから選び、記号で答えなさい。

□③ 「貫祿」

ア 身にそなわった威厳

イ 他よりひいでた能力

ウ 人を恐れさせる容姿

エ 気持ちの上での余裕

オ 人からのあつい信望

□⑥ 「華奢」

ア 華やかでどことなく粋なさま

イ ほっそりとして品がよいさま

ウ 見た目がよく人をひきつけるさま

エ すっきりとして清らかなさま

オ さっぱりとして感じがよいさま

□(6) — 線④「私はうわつとありつたけの声を張り上げて叫ぶと、そのまま

波打ち際に突進し、波に体をぶつけて、潮の中に頭を先にしてもぐって行く」とありますが、この行動は、主人公のどのような気持ちを表していますか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 恨みを抱いている彼女に、自分が直接何も手を下していないことに対するなげなげさ。

イ 都会からやって来た美しい彼女の目を、自分たちに向けさせることができたことへの喜び。

ウ あこがれの彼女に、三人の一年坊主だけが近づき、頭をなでられたことに対する嫉妬。

エ 恨みの対象である彼女が怖い顔をしたので、自分もつと怒らせてやりたいという欲望。

オ みなの手前恨んでいるふりはしても、彼女の美しさにひかれている自分へのもどかしさ。

□(7) ※ にはどのようなことばを入れればよいですか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 自分の欲深いことを表すことば

イ じゃばっていることを表すことば

ウ 自分を低く扱うことを表すことば

□(8) — 線⑤「私は口がきけなかった」とありますが、それはどうしてですか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 毎日のように彼女をやっつけてばかりいるので、気が引けていたから。

イ 彼女があまりにも単純な質問をしてきたので、あきれてしまったから。  
ウ 家の中にいる彼女の母親に、二人が会話しているのを聞かされたのがきっかけから。

エ 今まで大人びて見えていた彼女の美しさに間近に接し、とまどったから。

オ 彼女の何気ないしぐさやことばが、意外にも子供っぽく感じられたから。

□(9) 本文を場面の上から大きく二つに分けた場面、前半はどこまでとするのが最も適切ですか。前半の最後の八字（句読点も字数に数えます）を書き抜いて答えなさい。


19

韻文の読解

ポイントチェック

学習日

月 日

1 次の詩を味わい、あとの問いに答えなさい。

(同志社・改)

新緑の頃  
高村光太郎



① 詩の形式をつかむ この詩の形式は何ですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 文語定型詩      イ 文語自由詩      ウ 散文詩

エ 口語定型詩      オ 口語自由詩

② 表現技法をつかむ ⑩行目「手をひらく」に用いられている表現技法を、

次から選び、記号で答えなさい。

ア 反復法      イ 擬人法      ウ 倒置法

エ 直喩      オ 体言止め

③ 内容をつかむ に入る最も適切な木の名を次から選び、記号で答えなさい。

ア 桜      イ 梅      ウ 檜

エ 松      オ 楓

カ 榎

④ 比喩の内容をつかむ ⑦行目「仕掛け」の内容を具体的に表している部分を選び、一行を表す番号で答えなさい。

⑤ 情景を読み取る ⑫行目「そよいで」の主語は具体的には何ですか。一文節で書き抜いて答えなさい。

⑥ 比喩を読み取る —— 線a「ふるい行状」、b「あざやかな意匠」の意味

として最も適切なものを、それぞれ次から選び、記号で答えなさい。

ア 過ぎ去った行為      イ 古めかしい手段

ウ 昔からの言い伝え      エ 昔ながらの営み

オ 先祖からの遺産      カ 守られるべき法則

ア 新鮮な装い      イ 目新しい工夫

ウ 模範的な美      エ 有名な作品

オ 複雑なよう      カ 巧みな技法

①	
②	
③	
④	
⑤	
⑥	

□ (7) **主題をつかむ** 筆者の深い感動を端的に表す一行を、書き抜いて答えなさい。

□ (8) **内容をつかむ** この詩の内容に合わないものを、次から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 植物の姿を人間の成長する過程に見立て、なじみ深く感じている。
- イ 子供たちに対する深い愛情を、植物の美しさに託して歌っている。
- ウ 日本列島の隅から隅まで生がみちあふれていることを喜んでいる。
- エ 自然のしくみをしさに観察し、その精巧さに目を見張っている。
- オ 毎年の同じ風景が年ごとに新しく感じられることに感動している。
- カ 過ぎ去った季節がまた戻ってきたことに、造化の妙を感じている。
- キ 植物の清新さに対し、昔ながらの燕や地虫に物足りなさを感じる。
- ク 明るく健康な季節の中で、のびやかな開放的な気分を楽しく思う。

□ (9) **詩の歴史をつかむ** 高村光太郎の詩集を次から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 赤光
- イ 若菜集
- ウ 海潮音
- エ 一握の砂
- オ 道程
- カ 邪宗門
- キ 測量船
- ク 智恵子抄

2 次の短歌を味わい、あとの問いに答えなさい。(高知学芸・改)

A 春すぎて 夏 来にけらし 白妙の

衣ほすてふ 天の香具山

持統天皇

B 金色の ちひさき鳥の かたちして

銀杏いんぎよちるなり 夕日の岡に

与謝野晶子

C 白露に 風の吹きしく 秋の野は

\* つらぬきとめぬ 玉ぞ散りける

文屋朝康

D さびしさに 宿をたちいでて

いづこもおなじ 秋の夕ぐれ

良渚法師

E わたの原 こぎいでてみれば 久方の

\* 雲ゐに \* まがふ 沖つ白波

藤原忠通

(注) 来にけらし＝来たらしい。

つらぬきとめぬ＝糸でつなぎとめていない。

ながむれば＝しみじみとながめると。

わたの原＝大海原。

雲ゐ＝雲。

まがふ＝見まぢがえる。

□ (1) **短歌の歴史をつかむ** A～Eのうち、他の四首と時代が大きく離れている

ものの記号を書きなさい。

□ (2) **句切れをつかむ** Aの歌の句切れは、次のうちのどれですか。記号で答え

なさい。

- ア 初句切れ
- イ 二句切れ
- ウ 三句切れ
- エ 四句切れ

□(3) **表現技法をつかむ** Bの歌に使われている表現技法を次から選び、記号で答えなさい。

- ア 体言止め    イ 枕詞    ウ 倒置法    エ 字余り

--

□(4) **内容をつかむ** Cの歌の——線「玉」は何をたとえたものか、答えなさい。

--

□(5) **内容をつかむ** Dの歌の——線「いづこも同じ」とは、何が「いづこもおなじ」のですか。歌の中のことばで答えなさい。

--

□(6) **内容をつかむ** Eの歌の——線「まがふ」とは何が何に「まがふ」のですか。答えなさい。

--	--

□(7) **主題をつかむ** それぞれの歌の鑑賞文として最も適切なものを、次から選び、記号で答えなさい。

- ア 美しさの背後に自然の命のはかなさも感じられる。  
 イ 広々とした景色をおおらかにとらえて詠んでいる。  
 ウ きらめく美しさがこの世ならぬ神秘的な世界を感じさせる。  
 エ 色彩のあざやかな対比が新しい季節の到来を感じさせる。  
 オ 自己をとりまく寂しさを受け入れようとする意識が感じられる。

A	B	C	D	E
---	---	---	---	---

3 次の句と文を読んで、あとの問いに答えなさい。 (法政大女子・改)



〈立松和平「冬木立」より〉

(1) Aの句について、次の各問いに答えなさい。

□① **切れ字と句切れをつかむ** この句の①切れ字を書き、②句切れの説明として正しいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 初句切れ    イ 中間切れ  
 ウ 二句切れ    エ 句切れなし

①	②
---	---

□② **内容をつかむ** 「おどろくや」には、どのような思いがこめられていますか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 冬枯れの木立の中で、生命感にあふれた樹木の香りに刺激され、眠りから覚めるかのようにと我に返っている。

イ 何もかもが枯れ果てた冬景色の中で、夏を思わせる濃厚な香りを放ち続ける樹木に感動している。

ウ 何もかもが枯れ果てた冬景色の中に、思いがけず春に向けて歩み始めているものを知ってびっくりしている。

エ 冬枯れの木立の中で、季節はずれのきつい香りを放つ樹木に不思議な力があるように思われ、ふと恐れを抱いている。

□③ 俳句の歴史をつかむ この句の作者、与謝蕪村の時代的位置は次のどこに相当しますか。記号で答えなさい。

- (ア) ↓松尾芭蕉 ↓(イ) ↓正岡子規 ↓(ウ) ↓高浜虚子 ↓(エ)

(2) Bの句について、次の各問いに答えなさい。

□① 語句の意味 「あかつき」の意味を説明しなさい。

□② 表現技法をつかむ 「息をひそめて」のような表現方法を何といえますか。漢字で書きなさい。

□③ 内容をつかむ ① ⑤ に入る最も適切なことばを、それぞれ次

- から選び、記号で答えなさい。
- ア 熱っぽい      イ 水っぽい      ウ 埃ほこりっぽい  
 エ くつきりと      オ しつとりと      カ ふつくと

キ 柔らかな      ク 微わずかな      ケ 殺風景な

(4) 次のD群～F群の俳句について、次の各問いに答えなさい。

ア 琴ひいてまひるしづかに雛ひなまつり 長谷川素逝

イ 箱を出る顔忘れめや雛ひな二対 与謝蕪村

ウ 綿とりてねびまさりけり雛ひなの顔 宝井其角

エ いきいきとほそ目かがやく雛ひなかな 飯田蛇笏

ア 秋風に歩あ行いて逃げる螢ひらかな 小林一茶

イ 小春日や石を噛かみ居る赤蜻蛉とんぼ 村上鬼城

ウ 突きあたり何かささやき蟻ありわかれ (柳多留)

エ 秋の蚊や畳にそふて低くとぶ 正岡子規

イ 流れ行く大根の葉の早さかな 富安風生

ウ ものの種子たねにぎればいのちひしめける 高浜虚子

エ 松山の城を見おろす寒さかな 日野草城

イ 流れ行く大根の葉の早さかな 正岡子規

□① 主題をつかむ 各群には、他の三句とはあまり共通性のない句が一つずつ含まれています。その句の番号を書きなさい。

D
E
F

□② 季語と季節をつかむ Eウ「突きあたり何かささやき蟻わかれ」、Fイ「流れ行く大根の葉の早さかな」の季語と季節をそれぞれ書きなさい。

Fイ	Eウ
季語	季語
季節	季節

①
②
③
④
⑤



1 (1) 詩の形式をつかむ 詩の形式は次のように分類されます。

①言葉

文語詩……文語体で書かれた詩。例時は来ぬ／いざ行かん  
口語詩……口語体で書かれた詩。例時は来た／さあ行こう

定型詩……音数などが決まった形の詩。五七調、七五調など。

②形式

自由詩……決まった形がなく、自由な形の詩。

散文詩……普通の文章のような形の詩。

\*入試に出る詩の多くは、口語自由詩です。

(2) 表現技法をつかむ 詩の表現技法には次のようなものがあります。

①比喩

直喩……「(まるで) のよう」などと、比喩であることがはっきりわかるもの。例嵐あらしのようなくさしい。

隠喩……「(まるで) のよう」などの語句を用いないもの。例かつさいの嵐。

擬人法……人間でないものを人間のように表現するもの。例山が笑う。木々が手まねきする。

②反復法……くり返し。例雪が降る／雪が降る

③倒置法……普通の語順を逆にする。例しんしんと降る／白い雪が

④省略法……言うべき部分を省略する。例しんしんと雪が……。

⑤体言止め……行の末尾を体言(名詞)で止める。

例歩いてゆくのは菜の花畑

⑥対句……内容、形式が対になっている語句を並べる。

例山には鳥が歌い／川には魚がはねる

⑦押韻……行の初めや終わりに同じ音や似た音を並べる。

初めをそろえる頭韻と、終わりをそろえる脚韻がある。

例からまつの林をすぎて／からまつをししみと見き／からま

つはさびしかりけり／たびゆくはさびしかりけり

\*「比喩」の中に擬声語・擬態語を含むこともあります。

この詩では、葉の開く様子を「手をひらく」と表現しています。

(3) 内容をつかむ 葉を「手」にたとえていることを手掛かりにして、そのような特徴のある木の名を考えてみましょう。

(4) 比喩の内容をつかむ 梢を見ることによって、分かる仕掛けというのですから、その内容は⑧行目以降に書かれているとみてよいでしょう。

(5) 情景を読み取る 詩は表現が凝縮されているので、行間を読むことが特に必要になります。

この詩では「丁寧にたまたまれて」、「ばらりと出る」、「ほどけて手をひらく」、「かがやき」、「にじみ」、「そよいで」の主語はすべて同じものです。

(6) 比喩を読み取る 比喩は文字づらだけにとらわれずに、文脈も考えて読んでいくことが大切です。

③「行状」は「おこない」、⑥「意匠」は「くふう、デザイン」というのが、もとの意味です。それぞれが、どのようなものを表すためにこの詩の中で使われているかを考えます。

(7) 主題をつかむ 「深い感動」とありますので、「感動詞」が使われている行を探します。また、くり返し用いられていることはも筆者の気持ちが強くなることを表します。

(8) 内容をつかむ 題名は、その詩の主題を端的に表している場合が多く、内容をつかむ上でも重要です。この詩では、「新緑の頃」の植物の清らかさが感動をこめて描かれています。

(9) 詩の歴史をつかむ 高村光太郎は彫刻家としても知られた人物です。理想主義の詩人として、「道程」「智恵子抄」などを残しました。

(1) **短歌の歴史をつかむ** 記憶しておく三つの和歌集として、

① 「万葉集」……奈良時代中期に成立。大伴家持が主として編集。

② 「古今和歌集」……平安時代初期に成立。紀貫之らが編集。

③ 「新古今和歌集」……鎌倉時代初期に成立。藤原定家が編集。

これ以後、形式的なものに陥っていた短歌を革新したのが、正岡子規でした。「和歌」を「短歌」というようになったのも、大体このころからのこととす。

\* Bは明治から昭和にかけて活躍した与謝野晶子の作品です。他は皆「小倉百人一首」に収録されているものです。

(2) **句切れをつかむ** 「句切れ」は短歌と俳句に特有のもので、意味や調子の切れめをいいます。現代語に直した場合に「。」のつくところだと考えればよいでしょう。

(3) **表現技法をつかむ** 短歌の表現技法は、詩の場合とほとんど同じですが、次の二つは短歌に特有のものです。

① **枕詞**……特定の語を修飾する五音の語で、それ自体はほとんど意味を持ちません。例 久方の ↓ 雲、光 たちねの ↓ 母

② **字余り、字足らず**……五七五七七の定型より音数の多いものを字余り、少ないものを字足らずといいます。

(4) **内容をつかむ** 歌の中の何を「玉」のような丸い形だと言っているのかを考えましょう。

(5) **内容をつかむ** この歌は何を詠んだものかをまず考えましょう。

(6) **内容をつかむ** この歌の中で、名詞はどれかを考えながら解いてみましょう。「久方の」は「雲」にかかる枕詞、「沖つ」は「沖にある」という修飾語です。

(7) **主題をつかむ** (注)を手がかりとして、それぞれの歌の内容を注意深く読みとるようにしましょう。

(1) ① **切れ字と句切れをつかむ** 調子を切って感動の中心を示すものを「切れ字」といいます。「や」、「かな」、「けり」が代表的なものです。俳句

では切れ字の箇所も句切れとなります。

句切れの仕方は短歌とほぼ同様ですが、俳句の句切れには、「五／七五」と切る「初句切れ」、「五七／五」と切る「二句切れ」の他、中間の七音の途中で句切る「中間切れ」もあります。

例 万緑の 中や／吾子の 齒 生え初むる

中村草田男

② **内容をつかむ** 解説文の末文に「打てばカーンと響くような冬の雑木林は美しい」とあることから、樹木の生命力が主題になっていることが分かります。

③ **俳句の歴史をつかむ** 松尾芭蕉は、江戸時代初期に「俳諧」を芸術性のあるものへと高めた人物です。また、旅を愛し、代表作「おくのほそ道」のほか、多くの紀行文を書いています。正岡子規は「俳諧」を

「俳句」と名づけ、文芸として確立させた明治時代の人物です。与謝蕪村は画家としても知られる、江戸中期の俳人です。

(4) ① **主題をつかむ** それぞれの群で判断の基準となるものが異なるので注意しましょう。Dは「雛まつり」が主題の句と「雛人形」が主題の句とに分けることができます。Eは一句の中に異なる季節を表す季語が二つ用いられているものがあることに注意します。Fは「純粹写生」の句が一つ入っているので、それを見つけましょう。

② **季語と季節をつかむ** 俳句には少数の例外をのぞき、必ず季語があります。

春Ⅱ梅、桜、若草、つばめ、ひばり、淡雪、風光る、花冷え、など。

夏Ⅱ若葉、ほととぎす、初鯉、田植え、五月雨、麦の秋、など。

秋Ⅱ虫の音、すすき、きつつき、七夕、月見、天の川、台風、など。

冬Ⅱ大根、ねぎ、枯野、ふぐ、風邪、節分、春近し、小春、など。

ゆかし（動詞「行く」に対応する形容詞で、心が対象に向かつて強く引かれる感じ） 見たい、聞きたい、知りたい。

らうたし（「労いたし」が簡略化したもので、何かと世話をしていたわつてやりたい気持ちを表す） かわい。

わりなし（「理なし」という意味。道理に合わず、どうにも解決のできない迷いの気持ちを表す） 理屈に合わない、やむをえない。

## B 現代語とは意味の異なる古語

あたらし（惜し） 惜しい、残念だ。

あはれなり（うれしいにつけ、悲しいにつけ、「ああ、はれ」と心から発する感嘆の声からできた語） しみじみした趣がある。

ありがたし（有り難し） 。（あることがむずかしい）めったにない。

いたし（「程度がはなはだしい」が基本的意味） ひどい、すばらしい。いたづらなり（むだだ、役にたたない）。

うつくし（愛し） 。（肉親に対する愛情がもと）かわいい、愛らしい。

おとなし（大人し） 。（大人びている。落ち着いている）

こころにくし（心憎し） 。（憎いほどすぐれている）おくゆかしい、心ひかれる。

さうざうし（あるはずのものがなくて物足りない趣） さびしい。

としごろ（長年、数年来）。「ひごろ、つきごろ」と合わせて覚える☆助動詞の意味をつかむことも古文読解では大切です。

① 希望を表す……たし、まほし。

例 言ひたし（言いたい）。かくあらまほし（こうありたい）。

② 断定を表す……なり、たり。

例 春なり（春だ）。兄たる人（兄である人）。

③ 完了を表す……つ、ぬ、たり、り。

例 見つ（見おわった）。夏は来ぬ（夏が来た）。

④ 推定、推量、意志を表す……らし、む、まし、べし、めり、など。

例 春来たるらし（春が来たようだ）。言はむ（言おう）。

⑤ 過去を表す……き、けり。

例 男ありけり（男がいた）。よき人なりき（いい人だった）。

⑥ 打ち消しを表す……ず。

聞こえず（聞こえない）。

\*他に使役（す、さす、しむ）、比況（ごとし）などがあります。

③ 係り結びの法則 助詞「ぞ・なむ」（強意）、「や・か」（疑問・反語）を受け

る述語は連体形で結び、「こそ」（強意）を受けると述語は已然形（いざ）で結びます。

（用言の活用は巻末の表参照）

例 川、流る。（連体形） 川ぞ、流る。（已然形）

④ 内容をつかむ 古文に限らず、現代文でも、会話文の中では、話し手の立場

によって呼び名が変わることがあります。

⑤ 指示語をつかむ 普通指示されることばはすぐ前にありますが、古文では一

文が長いので、かなり前にあったり、指示されることば自体が長かったりす

ることがあります。注意しましょう。

⑥ 会話文を指摘する 古文では、会話文や思った内容がどこからどこまでかを

指摘する問題がよく出されます。終わりたいがい、「と言ふ」「と思ふ」と

いうことばでしめくくられています。

⑦ 内容をつかむ ⑥の要領で、まず、「中将」が思ったことが書かれている部

分を見つけてみましょう。

⑧ 主題をつかむ 説話では、たいてい、最後に、そこで紹介されたエピソード

から導かれる教訓、感想などが書かれている場合が多いものです。

⑨ 文学史の知識 「今昔物語集」は平安時代に成立した、日本最大の説話集で

す。鎌倉時代成立の「宇治拾遺物語」とあわせて覚えましょう。

1 次の文章は、虫を愛する姫君が登場する物語の冒頭です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

(東京学芸大附属)

蝶愛づる姫君の住みたまふかたはらに、<sup>\*</sup>按擦使の大納言の御女、<sup>\*</sup>心にくくなべてならぬさまに、<sup>\*</sup>親たち、<sup>\*</sup>かしづきたまふこと限りなし。

この姫君ののたまふこと、「<sup>①</sup>人びとの、花、蝶やと愛づること、はかなくあやしけれ。人は、まことあり。<sup>\*</sup>本地尋ねたるこそ、心ばへをかし

けれ。」とて、よろづの虫のおそろしげなるを取り集めて、「これが、成らむさまを見む。」とて、さまざまなる<sup>\*</sup>籠箱どもに入れさせたまふ。なか

にも、「<sup>\*</sup>鳥毛虫の心深きさましたるこそ、心にくけれ。」とて、明け暮れは、<sup>\*</sup>耳はさみをして、手のうらにそへふせて、まほりたまふ。

<sup>\*</sup>若き人びとは、怖ぢ惑ひければ、男の童のもの怖ぢせずいふかひなきを、召し寄せては、この虫どもを取らせ、名を問ひ聞き、いま新しき

には、名をつけて<sup>②</sup>興じたまふ。「<sup>③</sup>人は、すべてつくろふ所あるはわろし。」とて、眉、さらに抜きたまはず、<sup>\*</sup>菌黒め、さらに、「うるさし、き

たなし。」とて、つけたまはず。<sup>\*</sup>白らかに笑みつつ、この虫どもを、朝夕に愛したまふ。

人びと、怖ぢわびて逃ぐれば、<sup>\*</sup>その御方は、いとあやしくなむ、ののしりける。かく怖づる人をば、けしからず、<sup>\*</sup>凡俗なりとて、いと眉黒に

てなむ、睨みたまひけるに、<sup>④</sup>いとど、心ちなむ惑ひける。  
〔堤中納言物語〕より〕

(注) 按擦使の大納言＝官職名。

心にくくなべてならぬさま＝奥ゆかしく世間並みでないさま。

かしづきたまふ＝大切にお育てする。

本地＝実体。 籠箱＝虫かご。

鳥毛虫＝毛虫。 耳はさみ＝髪を耳にはさむ格好。

若き人びと＝若い女房たち。

菌黒め＝菌を黒く染める化粧の一つ。

白らかに＝白い菌を見せて。

その御方＝姫君のお部屋。 凡俗なり＝はしたない。

□(1) 線①「人びとの、花、蝶やと愛づること、はかなくあやしけれ」とありますが、姫君がこのように言うのはなぜですか。その理由として最も適切なものを、次から選び、記号で答えなさい。

ア 花や蝶のような美しいものを愛しても、いづれその美はおとろえてしまふ、と姫君は考えるから。

イ 花や蝶のような美しいものを愛するところは、人間の真実の心ではない、と姫君は考えるから。

ウ 花や蝶のような美しいものに執着する心は、仏教の教えに反している、と姫君は考えるから。

エ 花や蝶のような美しいものは、実体ではなくその変化した仮の姿である、と姫君は考えるから。

オ 花や蝶のような美しいものは、実体を追求する心のさまたげとなる、と姫君は考えるから。

□(2) 線②「興じたまふ」とありますが、姫君が興じていた遊びとして適切なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 珍しい虫を捕らえるために、野や山を走り回っていた。

イ 髪を耳にはさんで、毛虫のえさになる木の葉を集めていた。

□(4) 筆者が、この文章で述べようとしたことは何ですか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア もの珍しいものを探すには、旅に出るのが一番よい方法だ。
- イ 旅に出ることで普段とは違った、新鮮な発見があるものだ。
- ウ 旅に出ると、家に残してきた家族のことがふと気になる。
- エ 多くの旅を経験すると、自分自身を気づかうようになる。

3 次の文章は、『イソップ物語』に基づいて書かれた『伊曾保物語』の中に  
ある話です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

(海城)

ある時、(①)、(②)に向かつて誇りけるは、いかに(③)殿、謹しんで承はれ。われほど\*果報いみじきものは①。そのゆゑに、天道に奉る、あるひは国王に備はるるものも、まづわれ先に\*なめ試む。しかのみならず、\*百官卿相の頂をもおそれず、ほしいままに飛び上がり候ふ。\*わ殿ばら①が有様は、あつぱれつたなき有様とぞ笑ひ待りき。

(④) 答へて言はく、もつとも 御辺はさやうにこそ\*めでたくわたらせ給へ。ただし、世に沙汰し候ふは、御辺ほど人にきらはるるものなし。さらば、蚊ぞ蜂ぞなどのやうに②かひがひしく仇をもなさで、ややもすれば人に殺さる。しかのみならず、春過ぎ、夏去りて、秋風立ちぬるころは、やうやく翼をたたき、頭を撫でて、手をするさまなり。秋深くなるに従つて、翼弱り、腰抜けて、いと見苦しきさまとぞ申し伝へける。わが身は②ものなれども、春・秋の移るをも知らず、豊かに暮らし侍るなり。みだりに人をあなづり給ふものかなと恥ぢしめられて立ち去りぬ。

そのごとく、

(注) 果報いみじき 非常に幸運な。 なめ試む 味見をする。

百官卿相 すべて役人や高貴な人たち。

わ殿ばら おまえさんたち。 御辺 あなた。

めでたくわたらせ給へ しばらくしていらっしゃる。さらば しかるに。

□(1) (①) (④) には、ア「蟻」、イ「蠅」のどちらが入りますか。それぞれ記号で答えなさい。

①
②
③
④

□(2) ①に入る最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 世にあるべし
- イ 世にあるまじ
- ウ 世にありぬ
- エ 世にありけり
- オ 世にあるなり

□(3) ②に入る語を本文中から書き抜きなさい。

--

□(4) 線①「が」と同じ働きをするものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 信頼といふ大臆病人が待賢門をはや破られつるぞ、
- イ 赤人は人麻呂が下に立たむこと難くなむありける。
- ウ この歌、ある人のいはく、柿本人麻呂がなりと。
- エ 木曾は越後の国府にありけるが、五万余騎で馳せ向かふ。

□(5) 線②「かひがひしく仇をもなさで」の口語訳として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア ひどく害をなすということでもないのに
- イ たいそうな被害を与えるということをして
- ウ なにやかやと手厚い看病をしてやったので
- エ はなはだしくほかのものの面倒もみずに

□(6) ①「蟻」と②「蠅」の話の特徴を述べたものとして適切なものを次から

一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア いったんは相手をほめておいて、次の瞬間急に相手の弱点をついて攻撃する。

イ 自分の長所と相手の短所とを交互に述べることで、優劣の差をきわだたせる。

ウ 相手を徹底的にほめることによって、間接的に相手への皮肉をこめている。

エ 自分の長所をあげておいて、次にそうした長所をもたない相手を攻撃する。

①	
②	

□(7) ③にはこの話から導き出される教訓が入ります。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア いまだわが身に初めよりなき事をほかの者にあたらしくいすは、かへつてその悔いあるものなり。

イ いかほどにも人には恥ぢしめられあなづらるるとも、われみだりに人を恥ぢしめあなづる事なかれ。

ウ いささかわが身にわざあればとて、みだりに人をあなづる時は、かれまたおのれをあなづるものなり。

エ この世のいつさいの人間も、知らぬ事を知り顔にふるまはば、たちまち恥辱を受けんこと疑ひなし。

--

4 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(開成)

\* 余、\*熊野海辺の長島といふ所に遊びしに、仏光寺といふ寺あり。

その寺に石碑あり。碑面に「津波流死塔」と題せり。\*宝永四年十

月四日、\*未刻、大地震して、津波寄せ来り、長島の町家、近在、みなみな潮あふれ、流死の者おびただし。以後、大地震のときは、その心得して、山上へも逃げ登るべきやう」との文なり。諸国にて碑をも多く見つけども、長島の碑のごときは珍しく、いと殊勝におほえし。

その津波のこと、そのあたりにて尋ねしに、あまり古きことにてもなければ、語り伝へて今に恐れ合へり。それより、だんだん、浦々にて

尋ぬるに、津波寄せたりし浦もあり、また、さのみ高く登り来らざる港もあり。同じ南面の熊野の浦にて、

かく違ひあるは、いかなるゆゑぞとその地理を考ふるに、幅狭く海の入り込みたる、常々に

といふ港は、みな、そのとき津波来りて、人家、みなみな流れたり。海の幅広く、常々は、船のかかり悪しく、

確と港とも言ひがたきほどの所は、そのとき津波高からず、人家流るるほどのことは、

されば、海幅狭く深く入り込みて、常々船がかり良く、風の恐れも無き港は、別して大地震の時は用心すべきことにこそ。

大雨後の洪水または山津波なども、山近くの地に多きものにて、大阪

などのごとき、四方みな川々多く、常々も水危ふきやうなる土地には、

洪水の憂ひは、かへつて無きものなり。四方へ水のさばけ良きゆえ、

激怒の勢ひ無きなるべし。大海より寄せ来る津波もまたこれに同じと

見えたり。すべて津波はいつたん沖の方へ、にはかに潮引き去りてのち、

その返し大いに登り来るものとぞ。

宝永の津波も、いつたん海水、ことのほかに引き去り、常々見えざりつ

る海底の岩などで現れぬれば、海辺の者みなみな、あな、珍しと見物に出でたるに、しばらくの間に沖より大波寄せ来りて、逃ぐべき間も無く

て、流れ失せぬる者多かりしと言へり。西国の球磨川にても、大雨の後、

大水、川上かはかみよりにはかに押し来り、流れ死シンドグせることあり。これは洪水ニョウツテにて川上の山崩れ、川中かはなかへ落ち、埋まりうまつて、しばらくは川水をせき止めけるが、やがて、せき破れて、大水にはかに落ち来りしなりしとぞ。トイコトゾ

されば、海も川も、\*不ふ時に、ゆゑ無くして水 ① 引き去るは、あとにて ② 必ず来ることありと、用心すべきことなり。

〔橋南谿「西遊記」より〕

〔注〕 余わが私が。

熊野くまの紀伊半島の東南部にある。

宝永四年一七〇七年（筆者の訪ねたのは、その八十年以上あとのこと。）

未刻みくつ 午後二時ごろ。

勝手良かたてよしし 都合のいい。使いやすい。

船ふねのかかり 船をつないでおくこと（が）。

確たしかとはつきりと。確かに。

憂うれひ 心配。

球磨川たまがは 熊本県を流れる川。 不時に 思いがけない時に。

□(1) — 線②「かく」の指す内容が書かれている部分をさがし、初めの五字を書き抜いて答えなさい。


(2) — 線③・④には、それぞれ、（〜）と、ある内容を補って読むことができます。③・④の（〜）にあてはまる適切な語句を、本文中からそれぞれ書き抜いて答えなさい。

- ③  に 勝手良しといふ港
- ④  に 激怒の勢いきどおひ無なきなるべし。

③		
④		

(3) — 線①「長島といふ所」について、次の各問いに答えなさい。

□① 「長島という所」の地形の特徴が、よく推定できる部分を二箇所探し、書かれてある順に、二十〜三十字（読点も字数に数えます）で、それぞれ

れ書き抜いて答えなさい。


□② ①で書き抜いた箇所の要点を、後で短くまとめて述べている箇所を一つ探し、五字以内で書き抜いて答えなさい。


□④ この文章には六つの段落があります。そのうち、ある段落の最後の文は、そこから新しい話題（次段落の初めとなる内容）になっています。その文の初めの五字を書き抜いて答えなさい。


□⑤ ①・② にあてはまることばを本文中の語句を用いて、それぞれ五字以内で書き記しなさい。

①									
②									

□⑥ 「見物」に出た人々の思った、あるいは言った言葉を、二箇所探し、書かれてある順に、それぞれ五〜十文字で書き抜いて答えなさい。


□⑦ — 線a・bを現代語に言いかえなさい。

a									
b									

和歌を完成しなさい。

--

(7) 線⑤「今の妻のいひつること」について、各問いに答えなさい。

□① 実際に言っている部分はどこからどこまでですか。初めと終わりの三字をそれぞれ書き抜きなさい。


□② 結局、男は今の妻のことばのどういう点が入らなかつたのですか。五字以上、十字以内（句読点も字数に数えます）で簡潔に説明しなさい。


## 2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(桐蔭学園)

近ごろ、<sup>\*</sup>奥州のある山寺の<sup>\*</sup>別当、本尊を造立<sup>りゅうたつ</sup>せんと年ごろ思ひ企てて、黄金を五十両、袋に入れて、首にかけて都に上りけるほどに、<sup>\*</sup>駿河<sup>すまが</sup>国原中の宿にて、水浴びしける家にて、この袋を忘れて、次の日の夕方、菊川にて思ひ出したりけり。口惜しかりけれども、力及ばず。「今は人の物にぞなりぬらむ。かへりてたづぬともあらじ」と思ひて、都に上りて、<sup>①</sup>むなしく下らむも本意<sup>ほんい</sup>なくおぼえて、本尊を描きたてまつりてぞ下りける。さて原中の宿にて、<sup>\*</sup>下人に、<sup>②</sup>この家とこそおぼゆれ<sup>③</sup>など言ひて、見入れて通りけるを、家の中に若き女人ありて、「何事ぞ仰せ候<sup>まご</sup>ふぞ」と言ふ。「上りの時、物を忘れたりしが、この御宿とおぼえ候ふことを申すなり」と言ふ。「何をか御忘れ候ひける」と問ふ。<sup>③</sup>しかしかの願ひを發して、黄金を五十両入れて候ひつる袋を忘れたり」と、ありのままに詳しく語りければ、この女人、「われこそ、見つけて候へ」とて、取り出しとらせければ、<sup>④</sup>あまりのことにてあさましかりけり。「さて、<sup>⑤</sup>これ

10

は失せたるものにてこそ。十兩は<sup>\*</sup>参らせむ」と言へば、<sup>⑥</sup>十兩ほしくば、

五十兩ながらこそ、ひきこめ候はめ。私の御物なり。<sup>⑦</sup>いかが少しもたま

はるべき」と言ひければ、「下りによくよく申すべきことあり」と言ひて

立ち去りぬ。<sup>\*</sup>やがてまた都に上りて本尊思ひのごとく造立して、下りぎ

まにこの女人をたづねて、「そもそもいかなる人にておはするぞ」などと

こまやかに語らひ聞きければ、「都の者にてはべるが、親しき者もみな失

せて、縁を頼みて下りはべるが、少しの間と思ひしほどに、この宿に一、

二年住みはべり」と言ふ。<sup>⑧</sup>さてはいづくも同じ御旅にこそ。いざ来た

まへ。<sup>\*</sup>小所領など知行する身なれば、<sup>\*</sup>うしろみてたべ」と言へば、「承

りぬ」とて、やがて連れられて下りて、うしろみて、楽しく心安くありと

きこゆ。

(注) 奥州〳今の東北地方。

別当〳寺を管理する僧。

駿河国〳今の静岡県中部。

下人〳家来。

見入れて〳のぞきこんで。

やがて〳そのまま。

小所領など知行する〳小さな領地を管理する。

うしろみてたべ〳私の補佐をしてください。

□① 線①「むなしく下らむ」とは、どういうことですか。二十五字以内

(句読点も字数に数えます) で具体的に説明しなさい。


□② 線②「この家とこそおぼゆれ」とありますが、別当はこの家をどう

いう場所だと考えていますか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。



ポイントテクニック

1 文節・単語・文の成分 次のそれぞれの問いに答えなさい。

□(1) 次の文の(A)文節と(B)単語の数をそれぞれ算用数字で答えなさい。

〈これがつまり犬ですよ、と覚えなくてはならない。〉

(筑波大附属駒場)

(A)
(B)

(2) 次のそれぞれの文の中から、(A)主語と、(B)述語を書き抜いて答えなさい。

(日出女子学園)

- ① そこにいる犬は非常に人なつこい。
- ② 病気なのに、学校へ行くことはない。
- ③ 彼の私に対する接し方は親切だ。

	③	②	①
(A)	(A)	(A)	(A)
(B)	(B)	(B)	(B)

(3) 次のそれぞれの文の——線部のことばが直接修飾していることばを、文中から一文節で書き抜いて答えなさい。

(修道)

- ① こういう限定を私たちは、同時にする必要があるので。
- ② たいていは、死ぬのなら、瞬時の、できれば事故としかいいようのない不可抗力の死を望んでいます。

①
②

2 品詞の分類 次のそれぞれの問いに答えなさい。

(1) 次の①・②の説明文にあてはまる品詞を、それぞれあとから一つずつ選び、記号で答えなさい。  
(東海大相模)

- ① 自立語で活用があり述語となる用言で、「だ」で終わるもの。
- ② 自立語で活用がなく、連用修飾語になるもの。

- ア 動詞      イ 形容詞      ウ 連体詞      エ 副詞  
オ 助詞      カ 接続詞      キ 名詞      ク 形容動詞

①
②

(2) 次のそれぞれの文の——線(A)・(B)のことばの品詞名をあとから一つずつ選び、記号で答えなさい。  
(慶応義塾)

- ① ね、ここにいてもしかたがないから、すぐに帰りましょうよ。
- ② そういうふう<sup>(A)</sup>に人のせい<sup>(B)</sup>にしてはいけません。
- ③ このナイフはよく切れるのであぶない。<sup>(A)</sup> じゅうぶん<sup>(B)</sup>に注意して使わなければならない。
- ④ 好きにしてもよいと言っ<sup>(A)</sup>たら、喜んで遊んで<sup>(B)</sup>いる。彼は本来むじゃきな人なのだ。
- ⑤ むこう<sup>(A)</sup>に見えてきたあの大きな青い屋根はわが家<sup>(B)</sup>である。

- ア 名詞      イ 接続詞      ウ 感動詞      エ 副詞  
オ 連体詞      カ 動詞      キ 形容詞      ク 形容動詞  
ケ 助詞      コ 助動詞

④	①								
(A)	(A)								
		(B)	(B)						
				⑤	②				
				(A)	(A)				
		(B)	(B)						
								③	
								(A)	
									(B)

# 要 点 の 整 理

## 1 動詞

### (1) 「動詞の活用の種類」

- ① 五段活用：アイウエオの五段にわたって活用する。
  - ② 上一段活用：イ段を中心に活用する。
  - ③ 下一段活用：エ段を中心に活用する。
  - ④ 力行変格活用：不規則な活用をする。「来る」のみ。
  - ⑤ サ行変格活用：不規則な活用をする。「する・くする」のみ。
- カ変・サ変は暗記してしまいましょう。五段・上一段・下一段は、あとに「ない」を接続して、直前にア段の音が現れれば五段、イ段の音が現れれば上一段、エ段の音が現れれば下一段と判断します。
- ポイントチェックの1(1)の場合、それぞれ、ア「ならない」、イ「教えない」、ウ「話さない」、エ「言わない」と活用させてみます。

### (2) 「動詞の活用形」

活用形を判別するためには、ある程度、あとに続くことばを暗記しておくこととよいでしょう。

- ① 未然形：「くない・くう（よう）」などに続く。
- ② 連用形：「くます・くた・くて（で）」などに続く。
- ③ 終止形：「く。・くから・くと」などに続く。
- ④ 連体形：「く体言・くこと・くの」などに続く。
- ⑤ 仮定形：「くば」などに続く。
- ⑥ 命令形：命令で言い切る。

また、動詞は、終止形と連体形が同形なので、そのような場合、形容動詞に置き換えるということ覚えておくこととよいでしょう。

例 「話すのが好きだ」↓「静かなのが好きだ」：連体形とわかる

さらに、上一段と下一段の動詞は、未然形と連用形が同形です。この場合は、五段の動詞に置き換えて判断しましょう。

例 「広げながら」↓「話しながら」：連用形とわかる  
「生きられる」↓「話される」：未然形とわかる

## 2 動詞・形容詞・形容動詞・助動詞

形容詞・形容動詞・助動詞の活用を次に挙げておきます。形容詞は「かろ・かつ・く・い・い・けれ・〇」と、形容動詞については「だろ・だつ・で・に・だ・な・なら・〇」と、暗記しておきましょう。

### A 〈形容詞の活用〉

単語	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
美しい	かろ	かつ・く	い	い	けれ	〇

### B 〈形容動詞の活用〉

単語	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
穏やかだ	だろ	だつ・で・に	だ	な	なら	〇

### C 〈助動詞の活用〉

助動詞の活用には動詞型、形容詞型、形容動詞型などがあります。

ポイントチェックの2(1)②は、形容動詞の連用形の中に、名詞+助動詞が一つ入っています。「どのように」ということを説明している修飾語ではなく、「何に」ということを説明している修飾語を選びましょう。また、2(1)③は、形容詞の終止形の中に、形容動詞の語幹が一つ入っています。それぞれを連用形に活用させて比べてみましょう。

◎ 右の文章中の、――線①～⑤の表現が適切かどうかを考え、適切である場合には解答欄に○をつけなさい。不適切である場合には、適切なものをあとからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ① 連れて参りました。  
ア お連れ申し上げなさいました。  
イ 連れていらつしゃいました。  
ウ 連れて差し上げました。
- ② うかがった話を伝えます。  
ア おっしゃった話を伝えます。  
イ 聞いた話をお伝えいたします。  
ウ 聞かせていただいた話をお伝えします。
- ③ 指導していただいています。  
ア 指導していらつしゃいます。  
イ 指導しています。  
ウ 指導して差し上げています。
- ④ 指導してほしい  
ア ご指導くださりたい  
イ ご指導差し上げてほしい  
ウ 指導していただきたい
- ⑤ 申し上げてみてください。  
ア 話してみてください。  
イ おっしゃってください。  
ウ 申し上げていただきたいです。

①	
②	
③	
④	
⑤	

6 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(函館ラ・サール)

〈大野晋「日本語練習帳」より〉

□(1) — 線部①～④の語をそれぞれ謙讓語に改めなさい。ただし①～③は四字、④は五字とします。漢字・ひらがなは字数に応じて使い分けなさい。

□(2) □A、□Bに入る語として最も適切なものを次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア 故意    イ 人為    ウ 自発  
エ 不意    オ 作為    カ 偶発

□A
□B

□(3) □Cに漢字一字を入れると、「外界に対する恐怖」が尊敬語表現になってゆく過程の説明となります。その漢字の訓読みとして正しいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア つけあがる    イ へりくだる    ウ あなどる  
エ かしこまる    オ こわばる

□
---

□(4) 次の各文をすべて目上の人に対する表現とした場合、敬語の誤りを含むものを三つ選び、記号で答えなさい。

ア ダムがやっと完成したとのニュースは、既にお聞きになられたことと存じます。

イ 先日お目にかかった折には、父の健康をご案じくださってありがとうございます。

ウ 寒いことでもございますし、どうぞコートをお召しになったままお入りください。

エ 当社では地球環境に配慮させていただいた製品開発に、日々努力いたしております。

オ 私どもからの心ばかりの品物は、既にお手元にお届きになりましたでしょうか。

カ 積もった雪も溶けはじめ、次第に暖かい日が続くようになってまいりました。

③	①
④	②

□
□
□

32

語句の整理

学習日

月 日

ポイントチェック

1 熟語の構成 次のそれぞれの熟語と組み立てが同じものをあとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

- |      |      |        |        |        |        |
|------|------|--------|--------|--------|--------|
| カ 急病 | ア 無害 | キ イ 愛憎 | ク ウ 帰郷 | ケ 工 第一 | コ 才 人為 |
|      |      |        | ク 端的   | ケ 黙々   | コ 歎喜   |
- |                                 |                                  |                                 |                                 |
|---------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> (1) 寒冷 | <input type="checkbox"/> (2) 因果  | <input type="checkbox"/> (3) 必要 | <input type="checkbox"/> (4) 臨海 |
| <input type="checkbox"/> (5) 雷鳴 | <input type="checkbox"/> (6) 非凡  | <input type="checkbox"/> (7) 淡々 | <input type="checkbox"/> (8) 選管 |
| <input type="checkbox"/> (9) 御社 | <input type="checkbox"/> (10) 知性 |                                 |                                 |

(6)	(1)
(7)	(2)
(8)	(3)
(9)	(4)
(10)	(5)

2 四字熟語 次のそれぞれの□に入る適切な漢字をあとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

- |     |     |                                  |                                 |                                 |
|-----|-----|----------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|
| カ 拾 | ア 体 | <input type="checkbox"/> (1) 支離滅 | <input type="checkbox"/> (2) 感  | <input type="checkbox"/> (3) 心機 |
| キ 激 | イ 一 | <input type="checkbox"/> (4) 取   | <input type="checkbox"/> (5) 一挙 | <input type="checkbox"/> (6) 無量 |
| ク 移 | ウ 捨 |                                  |                                 | <input type="checkbox"/> (7) 転  |
| ケ 裂 | エ 亡 |                                  |                                 |                                 |
| コ 慨 | オ 両 |                                  |                                 |                                 |

(1)
(2)
(3)
(4)
(5)

3 ことわざ 次のそれぞれのことわざの内容に最も近いと考えられることばをあとから選び、記号で答えなさい。

- |   |  |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> (1) 身から出たさび                    | <input type="checkbox"/> (2) 石橋をたたいて渡る |
| <input type="checkbox"/> (3) ひょうたんから駒 <small>こま</small> | <input type="checkbox"/> (4) 石の上にも三年   |
| <input type="checkbox"/> (5) 藪 <small>やぶ</small> から棒    | <input type="checkbox"/> (6) 地獄で仏      |
| <input type="checkbox"/> (7) 馬の耳に念仏                     |  |

- |      |        |       |      |
|------|--------|-------|------|
| ア 意外 | イ 苦勞   | ウ 幸運  | エ 忍耐 |
| オ 慎重 | カ 打算   | キ 無関心 | ク 自慢 |
| ケ 突然 | コ 自業自得 |       |      |

(1)
(2)
(3)
(4)
(5)
(6)
(7)

4 慣用句 次のそれぞれの慣用句の□に入る適切なことばをあとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

- |  |
|--|
| <input type="checkbox"/> (1) □をあかす (〓 相手を出し抜いてあつと言わせる)       |
| <input type="checkbox"/> (2) □を洗う (〓 いままでしていたよくないことをきっぱりやめる) |
| <input type="checkbox"/> (3) □が広い (〓 世間に広く名が知られている。知り合いが多い)  |
| <input type="checkbox"/> (4) □を上げる (〓 技術や能力を向上させる)           |
| <input type="checkbox"/> (5) □が痛い (〓 欠点や弱点を的確に指摘され、聞くのがつらい)  |
| <input type="checkbox"/> (6) □をかける (〓 特別にひいきにする)             |

- |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|
| ア 目 | イ 腕 | ウ 足 | エ 鼻 |
| オ 顔 | カ 耳 | キ 口 |     |

(1)
(2)
(3)
(4)
(5)
(6)

5 故事成語 次それぞれの故事成語の意味として適切なものを、それぞれ  
5 あとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

- (1) 五十歩百歩  
ア 戦いの途中で逃げること。 イ 大差ないこと。  
ウ 少しずつ近づくこと。 エ 人を嘲笑ちやうしょうすること。  
□(2) 蛇足  
ア 無用の付け足し。 イ くねくねと曲がっていること。  
ウ 極めて執念深いこと。 エ 非常な速さで走ること。  
□(3) 杞憂きゆう  
ア 他人の心配事を笑うこと。 イ 気持ちが暗く沈みこむこと。  
ウ 取り越し苦労。 エ 何一つ心配がないこと。  
□(4) 他山の石  
ア 他人の欠点を自分の参考にする。 イ 他人の失敗や欠点。  
ウ 他人の欠点を無関係なものと思う。 エ 他人の欠点を探す。  
□(5) 塞翁が馬さいおうがうま  
ア 不幸のあとには幸福が来る。 イ 幸福をあくまでも求める。  
ウ 幸福のあとには不幸が来る。 エ 幸不幸は予測できない。  
□(6) 蛍雪の功  
ア 努力の結果成功すること。 イ 苦勞して学問に励むこと。  
ウ ひどい貧乏に耐えること。 エ さまざまに工夫すること。  
□(7) 白眉はくび  
ア 年老いていること。 イ ほんのわずかであること。  
ウ 兄弟が仲良くすること。 エ 中でも最もすぐれたもの。

(1)	
(2)	
(3)	
(4)	
(5)	
(6)	
(7)	

6 語意 次それぞれの文の□に入る適切なことばをあとから一つずつ  
6 選び、記号で答えなさい。

- (1) 多年の友人として□をつくして説き聞かせた結果、やっと彼の賛  
同を得た。  
□(2) 同じ人類として、飢え苦しむ人々のいる不□を見過みすごすことがで  
きない。  
□(3) 過去の複雑ないきさつを□して、新しい出発を目指したい。  
□(4) 確とした□があるわけではないが、今はこの対策より外に思い当  
たらぬ。  
□(5) 彼には、どこか□功名を立てたがる傾きがある。  
□(6) 自分の間は□関係を保ち、事態を静観することになった。  
□(7) 最近の会話の内容はどこか今ひとつ□に欠ける感が強い。  
□(8) 優勝チームの主将として人にも驕おごられ、□英雄気取りでいる。
- ア 成算 イ 清算 ウ 精算  
エ 制裁 オ 精細 カ 生彩  
キ 情理 ク 条理 ケ 忠誠  
コ 忠実  
シ 付かず離れずの ス 早手回しの  
セ 抜け駆けの ソ 張りつめた  
タ ひとかどの チ ねぎらいの

(1)	
(2)	
(3)	
(4)	
(5)	
(6)	
(7)	
(8)	

# 要 点 の 整 理

1 熟語の構成 二字熟語の構成には次の十種類があります。

- (1) 類義語の組み合わせ 「寒冷 (寒いと冷たい)」
- (2) 対義語の組み合わせ 「因果 (原因と結果)」
- (3) 「上が下を修飾する」必要 (必ず要る)
- (4) 「上が動詞、下が修飾語」臨海 (海に臨む)
- (5) 「主語・述語の関係」雷鳴 (雷が鳴る)
- (6) 「上が下を否定する」非凡 (平凡でない)
- (7) 「同じ字を重ねる」淡々 (あっさりとしている)
- (8) 「長い熟語を省略する」選管 (選挙管理委員会)
- (9) 「上が接頭語」御社 (「御」は「社」にていねいな意を添える)
- (10) 「下が接尾語」知性 (「性」はものごとの性質・傾向の意を添える)

2 四字熟語 構成には大きく分けて次の四種類があります。

① 類義、または対義の二字熟語を組み合わせたもの。

例 悪戦苦闘・換骨奪胎・取捨選択・支離滅裂・絶体絶命・大同小異・東奔西走・付和雷同・無我夢中・優柔不断・異口同音・針小棒大・晴耕雨読・有名無実・空前絶後・徹頭徹尾・弱肉強食・質疑応答

② 上の二字熟語が下の二字熟語に働きかけるもの。

例 前代未聞・暗中摸索・以心伝心・温故知新・危機一髪・我田引水・起死回生・疑心暗鬼・五里霧中・言語道断・自画自賛・自業自得・心機一転・首尾一貫・大器晚成・单刀直入・臨機応変・用意周到・馬耳東風・本末転倒・感慨無量・首尾一貫・異越同舟・適材適所

③ 四字がそれぞれ対等に並ぶもの。

例 春夏秋冬・起承転結・喜怒哀楽・花鳥風月

④ 数字を用いたもの。

例 一石二鳥・四苦八苦・千差万別・一日千秋・一喜一憂・一朝一夕・三寒四温・朝三暮四・七転八倒・千載一遇・千变万化・四分五裂

3 ことわざ 古くから言いならわされてきた、生活の智慧、人生訓、人間観

察などを、比喻や省略を用いて簡潔に表したものだ。似た意味のものも多く、また、正反対の意味のものも少なくない。

◇似た意味のことわざ◇

弘法も筆の誤り || 河童の川流れ || 猿も木から落ちる  
馬の耳に念仏 || 猫に小判 || 豚に真珠  
泣き面に蜂 || 弱り目にたたり目  
月とすっぽん || 提灯に釣り鐘  
糠に釘 || 豆腐にかすがい || 暖簾に腕押し  
蛙の子は蛙 || 瓜の蔓には茄子はならぬ  
果報は寝て待て || 待てば海路の日和あり

◇反対の意味のことわざ◇

渡る世間に鬼はない || 人を見たら泥棒と思え  
好きこそ物の上手なれ || 下手の横好き  
案ずるより産むが易し || 石橋をたたいて渡る  
善は急げ || 急いで事はし損じる (急がば回れ)  
立つ鳥跡を濁さず || 後は野となれ山となれ  
蛙の子は蛙 || 鳶が生む

## 4

〔慣用語〕二つ以上の語句が結びついて、もとの意味とは別の意味を表すようになった句。体の一部の名称を用いたものが多い。

〔耳〕：耳が痛い・耳にたこができる・耳を貸す・耳をそろえる・小耳に挟む・寝耳に水・耳が早い・耳を傾ける

〔頭〕：頭が上がない・頭が痛い・頭がかたい・頭が低い・頭が切れる・頭を抱える・頭をひねる・頭を冷やす

〔目〕：目が肥える・目がない・目から鼻へ抜ける・目と鼻の先・目に余る・目に入れても痛くない・目に角を立てる・目に物を見せる・目もくれない・目を掛ける・目を凝らす・目をつぶる・目を細くする・目を白黒させる・目から鱗うろこが落ちる・目が高い

〔口〕：口が重い・口が堅い・口が軽い・口が滑る・口が減らない・口が悪い・口に合う・口を合わせる・口を利く・口を切る・口を添える・口をそろえる・口を出す・口を尖とがらす・口をぬぐう・口を割る

〔鼻〕：鼻が利く・鼻が高い・鼻であしらう・鼻にかける・鼻につく・鼻をあかす・木で鼻をくくる・鼻を折る

〔首〕：首が飛ぶ・首が回らない・首を突つ込む・首を長くする・首をひねる・首をかしげる・首をすくめる

〔顔〕：顔が利く・顔が立つ・顔がつぶれる・顔が広い・顔から火が出る・顔に泥を塗る・顔を貸す

〔舌・歯・眉〕：舌を巻く・歯が立たない・眉をひそめる

〔肩〕：肩の荷が下りる・肩を並べる・肩をもつ・肩で風を切る

〔胸〕：胸が痛い・胸が一杯になる・胸が騒ぐ・胸がすく・胸が潰つぶれる・胸に手を置く・胸をなで下ろす・胸が躍る・胸を打つ・胸を膨らます

〔腹〕：腹が据わる・腹が立つ・腹を決める・腹を探る・腹を割る

〔腰〕：腰が低い・腰を折る・腰を据える・腰が碎ける

〔肝〕：肝が据わる・肝がつぶれる・肝を冷やす・肝に銘めいじる

〔手〕：手が掛かる・手が込む・手が足りない・猫の手も借りた・手も足も出ない・手に余る・手塩にかける・手をこまねく・手を切る・手を焼く・手を打つ・手を広げる・手が上がる・手が届く

〔足〕：足が出る・足が棒になる・足を洗う・足もとを見る・足を引つ張る・揚げ足を取る・二の足を踏む

〔腕・指〕：腕が上がる・腕が鳴る・腕によりをかける・指をくわえる  
このほかにも、動植物に関するものなども少なくありません。

5 〔故事成語〕おもに中国の古典にあるエピソードから生まれた言葉。もともなったエピソードとともに、正確な意味を覚えておきましょう。主な故事成語には次のものがあります。

〔庄卷〕「温故知新」〔臥薪嘗胆〕「画竜点睛を欠く」〔杞憂〕「牛耳を取る」〔漁夫の利〕「蛍雪の功」〔逆鱗〕「捲土重来」〔呉越同舟〕「五十歩百歩」〔五里霧中〕「塞翁が馬」〔四面楚歌〕「守株」〔出藍の誉れ〕「推敲」〔切磋琢磨〕「大器晚成」〔他山の石〕「蛇足」〔朝三暮四〕「虎の威を借る狐」〔背水の陣〕「白眼視」〔白眉〕「覆水盆に返らず」〔矛盾〕「竜頭蛇尾」

## 6

〔語意〕このパターンの問題では、文意・文脈に沿って、適切なことば・慣用語・故事成語・ことわざ・熟語を入れていくことが大切です。とくに同音異義語・同訓異義語などは正確な意味の識別ができることが問題解決の前提になります。例えば、(1)～(4)の問題は、

〔情理〕＝「人情と道理」。「条理」＝「物事のすじ道。道理」。

〔精算〕＝「金額などを細かに計算して結果を出すこと」。

〔清算〕＝「互いの貸し借りを整理・差し引きして、後始末を付けること」。

転じて、比喩的に、過去の関係に結末をつけること。

〔成算〕＝「物事をするに当たっての、成功する見込み」。

といった意味の識別ができて初めて解ける問題です。



5 次のそれぞれのことばと同じような意味になる熟語を、あとの語群の文字を組み合わせて作りなさい。  
(日出女子学園)

- (1) 予定                    (2) 勉強                    (3) 辞書  
 (4) 方法                    (5) 年代

代学 引段 計手 世字 問画

(1)
(2)
(3)
(4)
(5)

6 次のそれぞれの問いに答えなさい。

(豊島岡女子学園)

(1) 次のそれぞれの文の中で、漢字を誤りなく使っているものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 私は、単刀直入に要件を切り出した。  
 イ 以然として事態は好転しない。  
 ウ この種の週刊誌が大学生に読まれているのは以外なことだ。  
 エ 多くの人々が、彼を委員長に推選した。

(2) 次のそれぞれの□に漢字一字を入れてことわざを作るとき、他の三つと異なる字が入るものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 魚心あれば□心  
 イ 寝耳に□  
 ウ 焼け石に□  
 エ 柳に□折れなし

(3) 次のそれぞれの漢語の中から同意語でないものを一つ選び、記号で答え

なさい。

ア 寸言                   イ 格言  
ウ 提言                   エ 金言

(4) 「精読」と対立する意味の語を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 濫読らんじやく                   イ 味読  
ウ 朗読                   エ 黙読

(5) 次のそれぞれの熟語の中で漢字の用法に誤りがあるものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 言語道断                   イ 粉骨碎身  
ウ 取捨選択                   エ 五里夢中

(6) 次のそれぞれの慣用句の中から、□に人間の身体の名称が入らないものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア □をひそめる                   イ □に余る  
ウ □にかける                   エ □を正す

7 次のそれぞれの□に適切な漢字一字を入れて、四字熟語を完成させなさい。  
(土浦日大・改)

- (1) □ 機応変                    (2) 危機一□  
 (3) 自□自得                    (4) 三□四温  
 (5) 大器□成                    (6) 半信半□  
 (7) 呉越□舟                    (8) □承転結  
 (9) 異□同音                    (10) 起死回□

(6)	(1)
(7)	(2)
(8)	(3)
(9)	(4)
(10)	(5)

8 次のそれぞれの慣用句とほぼ同じ意味の四字熟語を、例にならつて、A群のカタカナを漢字にあらため、B群の漢字と組み合わせ作りなさい。ただし、A群のカタカナは何度使ってもかまいませんが、B群の漢字は一度しか使えないものとします。

(慶応志木)

例 馬の耳に念仏↓馬耳東風

(1) もつてのほか

(3) 歯にきぬをさせない

(5) 馬が合う

(2) 砂をかむよう

(4) 天にむかつてつばきする

(6) 手前みそ

A  
タン ギン バ イ ゴウ キ ドウ ム  
トウ ミ ジ ゴ カン ガ チョク

B  
風 得 入 断 賛 合 燥

(4)	(1)
(5)	(2)
(6)	(3)

9 次のそれぞれの熟語の中には、一字ずつ誤りがあります。それを抜き出し、正しく書き改めなさい。

(日出女子学園)

(1) 初志貫徹  
 (4) 起承転決

(2) 一後一会  
 (5) 当意則妙

(3) 意心伝心

(5)	(3)	(1)
誤	誤	誤
↓	↓	↓
正	正	正
	(4)	(2)
	誤	誤
	↓	↓
	正	正

10 次のそれぞれの四字熟語について、①□に入る適切な漢字を答えなさい。また、②それぞれの四字熟語の意味をあとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

(京都女子)

(1) 耳東風

(3) 疑心暗

(5) 温知新

(2) 言語断

(4) 巧言色

ア 疑う心が起ると、何でもないことまで恐ろしくなること。

イ 言葉では説明できない微妙な事柄を心に伝え、わからせること。

ウ 温和な人には、新しい友達がたくさんできること。

エ 助けがなく、まわりが敵・反対者ばかりであること。

オ 昔のことをたずね求めて、そこから新しい見解・知識を得ること。

カ 風の吹くまま、絶えず方々に旅行すること。

キ 言葉をうまく飾り、顔色をうまくつくり出すこと。

ク 人の意見や批評を全く気にかけないで、聞き流すこと。

ケ 疑う心が起ると、心が真つ暗になること。

コ 常識では思いもよらないほどとんでもないこと。

サ 言葉をうまく操って、色々な人をだますこと。

シ 言葉ではいい表すことができないこと。

(4)	(1)
①	①
(2)	(2)
(5)	①
①	①
(2)	(2)
	(3)
	①
	(2)